

令和8年度 入学試験（学部・一般選抜）国語

国語では、解答の書き方・表現を一つに限定しがたい設問について、採点基準に近い形の出題意図を示す。

1

問（一）（解答例）

カントの哲学に伏在していた人種への差別的な眼差しを浮かび上がらせることになったということ。

問（二）（解答例）

カントの人種差別を哲学的な欠陥として批判することは、哲学という営みが普遍的な正しさを標榜するものであるという価値規範を強化してしまうものになるということ。

問（三）（解答例）

啓蒙哲学には人種差別に関する歪んだ考え方を潜んでおり、カントのような高名な哲学者であってもそうした考え方からは逃れられていないということ。

問（四）

経験的事実に基づいて科学的であるか否かを判定する姿勢は、そもそも科学的に理解可能な領域を画定することができるという前提に支えられているという点で、不可知なものの領域を温存してしまうから。

問（五）

学問の名の下に人間の類型を形づくることは、そこに優劣をつけることが自己目的化した営みであるということ。

問（六）（意図・基準）

本問は課題作文に当たる。文章・構成面では、字数が8割以上あり、最後まで書き終えていること、誤字・脱字がなく、全体の構成がきちんと構築されていることを求めている。内容面では、本文の内容を踏まえていること、指示されていることにふさわしい内容であること、論理が一貫し、結論まできちんと書かれていることを求めている。

問（七）

（a）皮膚 （b）戯言 （c）営為 （d）もろは （e）頻繁

2

問(一) (解答例)

情趣を解する人がすっかり見捨てはしない道なので、女房歌人となるにふさわしい人もおもしろいでしょう。

問(二) (解答例)

女性たちが歌人と名乗り出ることを遠慮するので、彼女たちの和歌を聞き知ることが出来ない状況であるということ。

問(三) (解答例)

巻物に書き連ねた自分の和歌についてつまらない慰み事だと思っている。

問(四) (解答例)

すぐれた女性歌人の歌才が顕われずじまいになるのを惜しいと院が思いになったのは、もったいである。

問(五)

- (a) 完了の助動詞「ぬ」の連用形
- (b) 過去推量の助動詞「けん」「けむ」の連体形
- (c) 打消の助動詞「ず」の已然形

(一)

(1) トリ

(2) マタ

(3) ナンジ

(二)

とうろうのせみをうかがうに、みずからはをへだててもってかたちをかくすべきをう。

(三)

最初のうちは、妻もいちいち、「見えます。」と答えていたが、日が経つとだんだん面倒くさくなり、「見えません。」とうそを言った。

(四)

官吏はこの男があまりにも愚かだと思った。彼は、自分が手に入れた葉こそが、蠅螂が身を隠すために使う「隠れ葉」だと信じ、それで自分の姿を隠せば他人には見えなくなると思い込んでいた。これはまったく道理に反することである。そこで官吏は思わず大笑いした。